

報告

県指定有形民俗文化財

『蒲江の漁具』 調査・収集活動の歩み

会員 富 高 丈夫

昭和五〇年二月九日

佐伯市青少年センターで、佐伯地区文化財調査委員の連絡協議会が開かれた。臨時の県教育庁の後藤文化係長から、

「佐伯管内の文化財の特徴として、民俗・自然環境があげられる。とくに有形・無形民俗文化財があるが、漁具の調査・収集について早速に取組むとしてほしい」との強い要望があった。

昭和五一年一月九日

「海部の漁労用具」関係市町村打合せ会を開く。漁具の調査・収集の手順について、県教委文化課より指導をうける。

このあと、これからの取組みについて協議した。予備調査をまず蒲江町で実施することに決定

昭和五一年三月七、八日

「海部の漁労用具」予備調査を、蒲江町で実施。県教委文化課・佐伯教育事務所・宇目町・米水津村・蒲江町、計一三名参加。 「海部の漁労用具」で、蒲江の特色があるもの。

近海・沿岸漁業 ② おもて漁（セウリ） 直ぐ中心に行なつた。予備調査先を筆作製し、所収一四、他二十七戸二班に分れて調査、約二〇〇点を確認

昭和五十一年七月二二日～二六日 八月一八日～二二日

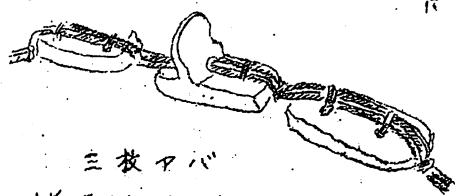
所史編さん中であつたので「漁業史」の項を設定すると共に「海部の漁具」のテーマのもとに、漁具を系統的に収集し、蒲江らしい漁具の保存と策定するため実施した

○調査についてチラシを所内全戸に配布 ○県内の専門家一〇名、所文化財調査委員五名、計十五名を調査員に委嘱す。

○四班に分れて、造船・漁具・漁法・加工・漁労組織 分配・運搬（交易・交通）信仰（儀礼）衣食住 年中行事・人生儀礼等について実施 ※この調査結果は五二年九月発行の「蒲江町史」に一八〇ページにわたって掲載した。

昭和五一年一月一日～一四日

佐伯市で開かれた、大分県主催の「大分ふるさとまつり」にその協賛行事として「蒲江の漁具展」を開く。会場は佐伯寿屋七階ホール。約五〇〇点展示。好評。会場がよかつたので、農山村の観光大勢で、催しは大成功。



三枚アバ

中着網イオドリを中心につける 漁具の代表、エベスアバともいう。

昭和五十二年一月七日—九月

④ 昭和三十二年二月十七日
「蒲江の漁具展」は、蒲江地区公民館で開く。地元の於ける漁具・民具保存のPRが目的であったが、八日は千松副知事と臨席。「蒲江の漁具保存会」が、ふるさとづくり振興事業として顕彰された。

NHKテレビでは「大分おおぶろしきこぶろしき」で、「蒲江の漁具」が紹介され、これが収集・整理に当られた、富沢・西元外多くんの方々の働きが表面に出た。

以上のような展開で、「蒲江の漁具」は、一先ずその総集成をなすとけ、遂に会願の、県指定有形民俗文化財となった。時、昭和五十三年三月、名称は「蒲江の漁具」、収蔵数五五〇点である。
今後の努力点は、まず次の二点を考えている。

(その一)

国指定民俗文化財をめぐって

調査収集をはじめ、僅か三年、年間を通して調査・収集の結果、県指定文化財となったが、各地区(蒲江)にはまだまだ相当数の漁具・民具・古文書があることを確認している。

これまでは収蔵庫などなかったために、収集・保存が思うようにいかなかったが、幸い蒲江高校新築移転後の施設が町中央公民館となり、かなり収蔵ができるようになった。

そこで、昭和五十四年度から、ふたたび調査・収集を進め、国指定文化財をめぐります。

(その二)

蒲江にふさわしい資料館の建設を進める

国指定と併行して、蒲江のシンボル「蒲江の漁具・民具」資料館建設を積極的に進めたい。国指定となると収蔵室・修理室・研究室もあるだろう。かなり広い展示室がある。幸い高校跡を教室が多い。当事者の奮起が望まれる。

資料

蒲江の風と潮

会員 西元由雄
(蒲江町蒲江浦)

まず紹介を

冠者「佐伯史談」一七八号が届きました。相変わらず出来栄に、先生の苦勞が偲ばれます。史料紹介が役に立つてほっとしております。(中略)

蒲江の西元さんから、海流に対する先人の計算方法を戴いておりましたので送ります。

佐伯湯は蒲江の潮とくらべ、三十分違ふことは、大島の漁師から聞いていました。史談資料に五五かどつか、とにかく送ります。

瀬戸内方面は、広島大学と愛媛大学の合同調査書がありますが、豊後水道はまだ手がついていないようです。私も先人の知恵に頼りました。

(後略) 東京 御手洗 一而

として、次のコピーが同封されて届きました。